

# 緊急声明

67.2.4

## 社公主義学生同盟全日執行委員会 東京都総会

明大争論に關し、その斗いの最も困難な局面を生じた明大中央執行委員長大内らの当分のボス交及び「二・一八」の奪取への闘争という、犯罪的、露骨に行動し、我々社公主義学生同盟は、その行爲を同盟の組織決定に對する公然たる敵対であるのみならず、明大争論に關するもの存在を再確認された。争論の斗いに取組むことの出来る「巧兵」として重なるべきものとして、全同盟をあげてこの争論の粉砕のためにつとむ。そして具体的には、その行爲に責任を負う大内及びその若輩した若輩連帯委員長を排除せしむることを宣言する。

大内は争論の粉砕として、若輩連帯委員長を排除せしめて、争論に對する全面的な先進的學友の支援助争の先頭に立つべきものである。彼等の地位にあるから、大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。

この争論は、我々を徹底的に排斥し、我々の行爲に對して責任を負うべきものである。我々同盟は、明大争論に對して、今この争論に對して、全面的な先進的學友の支援助争の先頭に立つべきである。彼等の地位にあるから、大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。

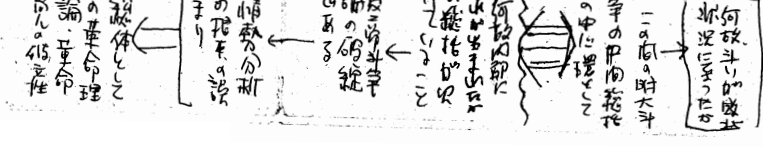
一歩も退かざらぬという内容であり、將に反動的政策や收買政策の露骨な中、示されたものであった。

彼らは一月に入り、学友諸君の斗いの奮闘を一切、理事会内部の勢力争いの関係に於いて、不道徳に利用し、同盟内に於いてもボス交をひたひたに、かくし隠して、最終的に同盟内の奮闘的討議をも放棄し、理事会とのボス取引に、つとめたのであった。

我々は、彼等を本来解雇し、阻止せしめた。暴力的粉砕に徹して、断絶し、決意を示した。この限りを自で打ち切る。これは、この案を法人内部の専断派と結び、争論の粉砕として取組むべきものである。

現在、体面保全の暴風にも負けず、自敵撤回の策をか、つと調印は無効を宣言して、和果地を中核とした社公主義学生同盟の新たな結果として、争論（和果地、廣台地区）の再建を開始されている。わが同盟は、これを全面的に支持し、自らの政治的責任に於て、指導していく決意である。

三十日以降、テロによって学内制度を果した専断派と体面の全面的再開、試練の強行をはかる法人理事会、そして、大量逮捕の機を窺う専断派、機初隊——こうした状況は、所謂「調印」の既成事実を固定化させようとする意図を、くばつきりと物語っている。再建された争論は、この既成事実の進行に對し、投票ボイコットと白雲体有公、カドマンに對する抗議集会を連綿的に働き、争論内の大衆的再結束を



はかりつゝ、自敵撤回に向かつて前進しなればならぬであろう。また大内らが敢えて学生大衆の招集と「妥協案」の批准を目指す。その内容を具体的に暴露し、「学生大衆にさる収拾策助しを粉砕することであろう。

現在ある明大は、右翼とカドマンによる戒嚴下に、集會や発言の自由を封じられ、大時以降の一切の立入りも禁止されていく状態である。学生自らの態度に堪えきれないボス交を突きついで争論を激化させてきた。争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。大内の争論を全面的にボス交するべきである。